



システム設定と通話管理に関する レポートの生成

Cisco Unity Connection レポートを使用して、システムの設定とコールハンドラについての情報を取得できます。この章は、次の項で構成されています。

- [レポートの概要 \(P.21-1\)](#)
- [レポート設定パラメータの設定 \(P.21-4\)](#)
- [レポートの生成と表示 \(P.21-5\)](#)

レポートの概要

Cisco Unity Connection Administration では、次のレポートを生成することができます。

表 21-1 システム設定と通話管理に関するレポート

レポート名	出力の説明
電話インターフェイスでの失敗したログオン	電話での Connection へのログオンが失敗した場合に、そのすべてのログオン試行について次の情報が含まれています。 <ul style="list-style-type: none">• ログオンに失敗したユーザのユーザ名、エイリアス、発信者 ID、および内線番号。• ログオン試行が失敗した日時。• ユーザが、ログオン失敗の最大回数に達したかどうか。
ユーザ	各ユーザに関する次の情報が含まれています。 <ul style="list-style-type: none">• 姓、名、およびエイリアス。• ユーザに関連付けられている Connection サーバを識別するための情報。• 課金 ID、サービス クラス、および内線番号。• アカウントがロックされているかどうか。• ユーザがパーソナル着信転送ルールを有効にしているかどうか。

表 21-1 システム設定と通話管理に関するレポート (続き)



レポート名	出力の説明
ユーザのメッセージ アクティビティ	<p>送受信されたメッセージに関して、次の情報がユーザごとに含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 名前、内線番号、およびサービス クラス。 各メッセージの日時。 各メッセージの送信元に関する情報。 完了した操作 (新しいメッセージ、メッセージの開封、MWI オン要求など)。 ユーザが受信した新しいメッセージの数、およびメッセージ発信者に関する情報。 発信番号と結果。
同報リスト	<p>次の情報が含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> リストの名前と表示名。 リストの作成日時。 同報リストの作成日時は、グリニッジ標準時で示されます。 リストに含まれているユーザの番号の数。 [Include List Members] チェックボックスをオンにした場合は、リストのメンバーになっている各ユーザのエイリアスのリスト。
ユーザ ロックアウト	<p>ユーザのエイリアス、ユーザがログオンに失敗した回数、資格のタイプ (結果が「4」の場合は Connection ガイダンスからのログオン試行を示し、「3」の場合は Web アプリケーションからのログオン試行を示す)、およびアカウントがロックされた日時が含まれています。</p> <p> (注) ユーザ アカウントのロックアウト日時は、グリニッジ標準時で示されます。</p>
未使用ボイスメール アカウント	<p>ユーザのエイリアスと表示名、およびユーザ アカウントの作成日時が含まれています。</p> <p> (注) ユーザ アカウントの作成日時は、グリニッジ標準時で示されま</p>
転送電話課金	<p>各通話に関する次の情報が含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ユーザの名前、内線番号、および課金 ID。 通話が発生した日時。 ダイヤルされた電話番号。 転送の結果 (接続、応答なし (RNA)、通話中、不明)。
発信課金詳細	<p>次の情報が含まれています。これらの情報は、日付および電話をかけたユーザの内線番号に基づいて整理されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 名前、内線番号、および課金 ID。 通話の発生日時。 ダイヤルされた電話番号。 通話の結果 (接続、応答なし (RNA)、通話中、不明)。 通話の長さ (秒)。

表 21-1 システム設定と通話管理に関するレポート (続き)

レポート名	出力の説明
発信課金要約	出力は、日付および電話をかけたユーザの名前、内線番号、および課金 ID に基づいて整理されています。この出力は 1 日 (24 時間) のリストであり、指定された日の各 1 時間の発信時間 (秒単位) が示されています。
コールハンドラ トラフィック	各コールハンドラに関する次の情報が含まれています。1 日の各 1 時間に 1 行使用されています。 <ul style="list-style-type: none">• 通話の合計数。• 各タッチトーンキーが押された回数。• 内線。• 無効な内線番号。• グリーティング再生後の操作が発生した回数。• 発信者が電話を切った回数。
システム コンフィ ギュレーション	Connection システムのコンフィギュレーションのすべての面に関する、詳細な情報が含まれています。

レポート設定パラメータの設定

Cisco Unity Connection は、レポート生成の基礎となるデータを収集して格納するように自動的に設定されます。生成するレポートの出力内容に応じて、次のパラメータを調整することができます。レポートのパラメータ設定は、すべて Cisco Unity Connection Administration の [System Settings] > [Advanced] > [Reports] ページにあります。

- [Milliseconds Between Data Collection Cycles] : デフォルトでは、30 分 (1,800,000 ミリ秒) に設定されています。この設定によって、レポート データを収集する各サイクル間に Connection が待機する時間の長さを制御します。
- [Days to Keep Data in Reports Database] : デフォルトでは、180 日に設定されています。生成しようとするレポートに対して、この日数を超える値を対象期間として指定しても、データの日数はここで設定する値によって制限されます。
- [Maximum Records in Report Output] : デフォルトでは、25,000 レコードに設定されています。このフィールドに指定できる最大値は、30,000 レコードです。生成しようとするレポートで、レコード数がこの許容最大値を超える場合は、レポートを何回かに分けて生成します。たとえば、データ範囲を狭くするか、各期間に含まれるユーザ アカウントの数を減らします。



(注) ユーザのメッセージ アクティビティ レポートでは、[Maximum Records in Report Output] の設定が、デフォルトの 25,000 レコードではなく 15,000 レコードに制限されます。これは、レポートのサイズが大きくなるためです。

- [Minimum Records Needed to Display Progress Indicator] : デフォルトでは、2,500 レコードに設定されています。このフィールドに指定できる最大値は、10,000 レコードです。進捗インジケータの目的は、要求したレポートのサイズが大きく、完了に時間がかかる場合に警告することです。Connection では、レポートはブラウザから生成します。このブラウザ セッションは、レポートを生成している間は開いたままにしておく必要があります。データベースのサイズや生成しているレポートのタイプによっては、レポートの生成に時間がかかることがあります。この間、管理者はブラウザを使用できず、Connection Administration セッションを開いたままにしておく必要があります。

レポート データのアーカイブ

レポート データは、設定したデータ保存期間パラメータに基づいて、徐々に上書きされていきます。履歴を残すためにレポートを保管しておく場合は、レポートを定期的に生成するスケジュールを計画し、それらのレポートを Cisco Unity Connection サーバ以外の場所に保存することをお勧めします。

レポートの生成と表示

レポートを生成する場合、次の項目の一部またはすべてを指定できます。

- レポートに含めるオブジェクト（ユーザアカウントやコールハンドラなど）
- レポートに含める日付と時刻の範囲
- レポート内のデータのソート順

レポートのファイル形式についても、次の中から選択できます。

[Web page]	HTML ファイル。レポート出力は、Web ブラウザに表示されます。 小さなレポートをすぐに表示するには、この形式を選択します。Web ページレポートを Connection サーバ上で直接表示すると、システムのパフォーマンスに影響する可能性があります。したがって、この場合の Web ページレポートのサイズは 250 レコードに制限されています。250 レコードを超える Web ページレポートを実行する場合は、Connection Administration を別のコンピュータから参照し、レポートを生成します。 レポートを保管しておく場合は、PDF レポートを生成することをお勧めします。
[Comma-delimited file]	テキストファイル（カンマ区切り、または CSV ファイルとも呼ばれる）。レポート出力は、カンマ区切りのデータ スtring として表示されます。スプレッドシート プログラムなど、別のアプリケーションで情報を表示または印刷する場合に、この形式を選択します。
[PDF file]	レポート出力は、読みやすい形式で PDF として表示されます。PDF は、印刷および保存することができます。レポートを保管しておく場合は、この形式を選択することをお勧めします。

レポートを生成するには、システムがビジー状態でないときが最適です。Connection が多くの通話を処理していない通常の営業時間後、または他のプロセスが実行中でない場合（たとえば、フルバックアップの前後）です。レポート生成要求は、キューに入れられます。複数のレポートが（それぞれ別のブラウザから）同時に生成される場合、レポートは順に待機し、一度に 1 つずつ処理されます。



注意

システムがビジー状態のときに大きなレポートを生成すると、システム リソースを消費し、結果としてシステム ユーザに対する応答時間が長くなる可能性があります。

レポートは、事前にスケジュールを設定することができません。また、レポートの生成中に Connection サーバをシャットダウンするか、Connection Administration のブラウザセッションを閉じると、レポートの生成はキャンセルされます。

レポートを生成して表示する

ステップ 1 Cisco Unity Connection Administration で、**[Monitoring & Reports]** を展開し、**[Reports]** をクリックします。

ステップ 2 **[Reports]** ページで、生成するレポートの名前をクリックします。

ステップ 3 レポート出力のファイル形式を、次の中から選択します。

- [Web Page]
- [Comma-Delimited File]
- [PDF File]

ステップ 4 適切な開始日時と終了日時（年、月、日、時刻）をクリックして、日付範囲を設定します。

ステップ 5 必要に応じて、その他のパラメータを設定します。

ステップ 6 [Generate Report] をクリックします。

ステップ 7 [ステップ 3](#) で選択したファイル形式に応じた方法で、レポート出力を表示します。

- [Web Page] を選択した場合、レポート出力はブラウザ ウィンドウに表示されます。
 - [Comma-Delimited File] を選択した場合は、ファイル ダウンロード ダイアログボックスが表示され、ファイルを開くか、保存するように求められます。
 - [PDF File] を選択した場合は、ファイル ダウンロード ダイアログボックスが表示され、ファイルを開くか、保存するように求められます。
-